

# 聖路加看護学会

ニュースレター

第15回聖路加看護学会学術大会を終えて 第15回聖路加看護学会学術大会報告 事務局の窓から～第15回聖路加看護学会学術大会を振り返って  
座長・司会者のメモから 参加者からの一言メッセージ 理事長挨拶 総会の焦点 第16回聖路加看護学会学術大会のご案内 お知らせ 編集後記

## ●第15回聖路加看護学会学術大会を終えて

第15回学術大会長 佐藤 エキ子

9月の最終土曜日、朝はあいにくの雨模様でしたが、その後晴れ間が広がってさわやかな秋日和のなか、第15回聖路加看護学会学術大会を開催することができました。本大会では「開こう『看護の技術箱』－臨床看護実践への貢献－」と題し、349名の大勢の参加者とともに、看護の技術箱を開けることができました。今年はナイチンゲール没後100年ということで、ナイチンゲールの著書「看護の覚え書」が再び注目されていますが、ナイチンゲールは、看護技術を“nursing art”と表し、看護実践において求められているのは、単なる看護行為ではなく、観察技術・科学性・創造性などさまざまな要素を含めた「看護技術」の提供であると述べています。

午前は、朝9時から30分間の学会総会が終わったのち、大会のメインテーマ「開こう看護の技術箱」のオープニングセッションとして、川島みどり先生と菱沼典子先生の対談が行われ、技術箱はまさに看護の道具箱であり、その道具を看護師がいかに使いこなし、成長させていくかについて考えることができました。そのあとの教育講演では、新しい看護技術の概念（キネステティック）とテクニックの紹介があり、「人の動きの支援」にはウォームアップ・機能トレーニング・クールダウンの3段階があることも学びました。

昼食の時間帯には、本学会でははじめての取り組みである「看護技術展示」と実演、プレゼンテーションが行われ、参加者からの質問などで賑わいました。また、一般発表は、示説による発表でしたが、24演題の発表があり、ここでも大勢の参加者との交流が活発に行われました。

午後の教育講演では、エビデンスに基づいた高度看護実践として、褥瘡研究を例にトランスレーショナルリサーチの極意を学ぶとともに、多くの参加者が感動と励ましをいただきました。また、特別講演1では保健政策への働きかけとして、EBNに基づいた看護技術を社会に示していくこと、さらには看護技術のもたらす経済効果もアピールしていくこと、社会が必要としている「看護技術」を社会に伝えていくこと、が看護の使命であるということ学びました。

このように学術大会では、各講師のご講演・演題発表を通して、私たちは多くの知見と学び・気づきを得ることができました。そして実りある学術大会が開催できたことは、学会員の皆様はじめ多くの関係者のご協力の賜物であると考えております。ここに、あらためて感謝申し上げます。

# 第15回 聖路加看護学会学術大会報告

【日 時】 2010年9月25日(土)  
9:30~17:30

【会 場】 聖路加看護大学  
【大会長】 佐藤エキ子  
(聖路加国際病院)

【テーマ】 「開こう看護の技術箱」  
~臨床看護実践への貢献~

## 総 会

アリスC. セントジョン  
メモリアルホール 9:00~9:30

## 対 談

アリスC. セントジョンメモリアルホール  
9:40~10:50

「開こう看護の技術箱」(技術箱の基礎)  
講演者 川島みどり  
(日本赤十字看護大学)  
菱沼 典子(聖路加看護大学)  
司 会 佐藤エキ子(聖路加国際病院)

## 教育講演 1

アリスC. セントジョンメモリアルホール  
11:00~11:50

使おうみんなの看護の技術箱  
「新しい看護技術の概念と看護実践の応用」  
講演者 徳永 恵子(宮城大学)  
司 会 太田喜久子(慶應義塾大学)

## 教育講演 2

アリスC. セントジョンメモリアルホール 14:00~14:50

磨こう看護の技術箱  
「基礎と臨床を結ぶトランスレーショナルリサーチ  
-褥瘡研究からみた基礎研究の成果と高度看護実践との橋渡し-」  
講演者 真田 弘美(東京大学大学院)  
司 会 田代 順子(聖路加看護大学)

## 特別講演 1

アリスC. セントジョンメモリアルホール 15:00~15:50

示そう看護の技術箱  
「看護の技術を社会に伝えよう」  
講演者 あべ 俊子(衆議院議員)  
司 会 井部 俊子(聖路加看護大学)

## 特別講演 2

アリスC. セントジョンメモリアルホール 16:00~17:30

「旅」~ふれあい~  
“自分の技術”を活かし、世界と日本で活躍している人達をたずねて  
講演者 関口 知宏(俳優・旅人)  
司 会 佐藤エキ子(聖路加国際病院)

## 看護技術展示とプレゼンテーション

展示 9:30~15:30

第Ⅰ・Ⅱ会場(301・302講義室) 11:50~13:00

- A 産後の母親への10分手順マッサージの導入  
~研究から得たことを臨床に取り入れて~  
○國料有美子、黒川寿美江、金子 美紀、込山 恵子、富所 恵美  
松永真由美(以上聖路加国際病院)
- B 死産を経験した家族の出会いと別れを支える天使キットの開発  
○蛭田 明子、堀内 成子(以上聖路加国際病院)  
太田 尚子(静岡県立大学)  
石井 慶子、堀内 祥子  
(以上聖路加看護大学看護実践開発研究センター客員研究員)  
鈴木 千穂
- C 患者が着用する手術・検査用ガウンの新規考案  
○吉川久美子、高井今日子、井上貴久美、小川真由美  
(以上聖路加国際病院)
- D EGFR 阻害薬使用時のフットケア  
○金児 玉青(聖路加国際病院)
- E 外国人女性への多言語パンフレット実用の評価  
○五十嵐ゆかり(聖路加看護大学)  
堀内 成子(聖路加看護大学)



受付



小雨降る中集う参加者

F シミュレーション教育によるICU緊急再開胸時の介助向上への取り組み  
○渡辺 朋子、竹嶋 千晴(以上聖路加国際病院)

## 示 説

掲示 9:30~15:30

【第1群：看護管理】第Ⅰ会場(301講義室) 13:00~14:00

- 座長 鶴田恵子(日本赤十字看護大学)
- 1 医療機関の敷地内禁煙と禁煙推進活動  
○柳橋 礼子(河北総合病院)  
亀田 綾、下澤 麻子  
(以上聖路加国際病院)
- 2 腹膜透析専門ナースの育成と今後の展望：専門外来見学研修コースの評価  
○藤岡真理子、正岡 裕子  
北村 真理、中島 由賀  
加曾利良子(以上聖路加国際病院)
- 3 一般病棟の重症化への対応：  
クリティカルケア検討会10年間の活動実績より  
○池亀 俊美、田村富美子、甲屋 早苗、高屋 尚子  
(以上聖路加国際病院)
- 4 育児休暇明けスタッフとの協働に関する一考察：  
急性期病院における外科系病棟での試み  
○横山映理子、高井今日子、佐々木千枝子、河野 祥子、石原まり恵  
小山 友里(以上聖路加国際病院)



示説会場

【第2群：看護教育】第Ⅰ会場(301講義室) 13:00~14:00

- 座長 森田 夏実(慶應義塾大学看護医療学部)
- 5 看護学導入期の学生の困難性に対応したweb教材の活用状況  
○佐居 由美、菱沼 典子、大久保暢子、伊東美奈子、蜂ヶ崎令子  
大橋久美子(以上聖路加看護大学)、佐竹 澄子(前聖路加看護大学)
- 6 看護学生の看護実践能力調査：  
看護行動測定尺度(Six-D Scale: Schwerian)を用いて  
○佐居 由美(聖路加看護大学)  
高屋 尚子、西野 理英、飯田 正子、寺田 麻子  
(以上聖路加国際病院)
- 松谷美和子、平林 優子、卯野木 健(以上聖路加看護大学)
- 7 看護系大学卒業の新卒看護師に求められる臨床看護実践能力：  
1年目看護師への面接調査内容の分析  
○奥 裕美(聖路加看護大学大学院博士後期課程)  
松谷美和子、佐居 由美、堀 成美(以上聖路加看護大学)
- 8 看護系大学卒業の新卒看護師に求められる臨床看護実践能力：  
2年目看護師への面接調査内容の分析  
○佐居 由美、松谷美和子(以上聖路加看護大学)  
三浦友理子(聖路加看護大学大学院博士課程)
- 9 看護系大学卒業の新卒看護師に求められる臨床看護実践能力：  
先輩看護師への面接調査内容の分析  
○西野 理英、高屋 尚子(以上聖路加国際病院)  
松谷美和子(聖路加看護大学)、寺田 麻子(聖路加国際病院)

【第3群：母性・小児・基礎看護】第Ⅰ会場(301講義室) 13:00~14:00

- 座長 近藤 好枝(慶應義塾大学看護医療学部)
- 10 アロマハンドマッサージを受けたことでもたらされる気持ちの相  
○鈴木 彩加(聖路加看護大学大学院修士課程)  
大久保暢子(聖路加看護大学基礎看護学)
- 11 産後2~3か月の母親の精神的健康とパートナーのソーシャルサポートとの  
関連：夫婦の相互評価の一致・不一致に焦点をあてて  
○今井 静(静岡県立大学)、島田真理恵(聖母大学)
- 12 化学療法を受ける患児の口腔合併症に対する予防的介入システム構築への  
現状報告  
○一條 真実、小林万里子、岩崎寿賀子、西野 理英、佐保 邦枝  
永瀬 恭子、吉川久美子(以上聖路加国際病院)
- 13 NICUに入院した子どもの母親に看護者が助けになる時とならない時  
木村 晶子(聖路加看護大学大学院博士課程)
- 14 授乳期の乳房診断アセスメントツールの開発-項目精選-  
○長田知恵子(聖路加看護大学大学院博士課程)  
堀内 成子(聖路加看護大学)

【第4群：成人看護】第Ⅱ会場(302講義室) 13:00~14:00

座長 鈴木 久美(兵庫医療大学看護学部)

- 15 外科系病棟におけるせん妄に対するケアの取り組みと今後の課題  
○山田 祐子、鈴木 優子、小林万里子、岩崎寿賀子、西野 理英  
(以上聖路加国際病院)
- 16 開腹術後の疼痛コントロール方法の改善から得られた成果  
○江頭 由美、高井今日子、川西 祐子、浅田 美和、氏家 由喜  
(以上聖路加国際病院)
- 17 食事介助からリハビリテーションへ  
○上野まき子、金子 美恵(以上聖路加国際病院)
- 18 心臓カテーテル室担当看護師のための、シミュレーションを使用した初期教育プログラムの開発と評価  
○笠井 愛、竹嶋 千晴(以上聖路加国際病院)
- 19 多職種協働アプローチによる保存期慢性腎臓病患者教育プログラム「そらまめ塾」の開発とその評価  
○北村 眞理、高澤亜美子、土居 工、川名賢一郎、瀧 史香、中島 由賀、加曾利良子(以上聖路加国際病院)

【第5群：産業・地域・国際看護】第Ⅱ会場(302講義室)13:00~14:00  
座長 林 直子(聖路加看護大学)

- 20 うつ病により長期休職した男性労働者の職場復帰における心理社会的回復過程：職場復帰リハビリテーションプログラムを受けた3名の事例を通して  
○山岡 由実(聖路加看護大学大学院看護学研究科博士後期課程)
- 21 中皮腫患者が求める情報と医療者への要望  
○長松 康子(聖路加看護大学)
- 22 フィリピン・スラム地区在住の子どものう蝕に関する調査  
○武井 奏子(聖路加国際病院)、長松 康子(聖路加看護大学)
- 23 首都圏における外国人留学生の新型インフルエンザ(H1N1)に対する知識と行動  
○若松 香織(聖路加国際病院)、長松康子(聖路加看護大学)
- 24 ウガンダ共和国の公立病院における環境改善活動の経過と成果  
○水谷真由美(聖路加大学院修士課程)



会場からの質問

## ●座長・司会者のメモから

### 【教育講演2】

褥瘡ケアは、長年看護の質を反映する一つであると目され、褥瘡予防およびケアは看護技術の中核の一つであり、近年、保険加算されたその有効性が認められた技術である。講演者の真田氏は、1987年のクリーブランドクリニック聖路加分校ETスクールを修了後、今日までの段階的な無作為化臨床試験による根拠を積み重ねてこられた研究成果を私たちに示された。まさに、「トランスレーショナルリサーチ」と称される真田先生の褥瘡ケアの基礎研究から、褥瘡予防のためマットレスや予防看護ケア物品の開発、さらに、人材育成までの一連の研究について講演された。加えて、今日、褥瘡ケアは、多くの職種のチームアプローチとなっている。時に、チーム内での方針の一致を見ないこともある。チーム内での一致を見つける時、ケアチームがPatient firstの理念に立つことの重要性を述べられた。看護技術がEvidence-basedでその有効性を示されることの重要性と、講演自体がEvidence-basedであったことにより説得力のある講演であった。司会者としては、会場から質問を受けることができず残念であった。(田代 順子)

### 【第2群 第I会場 示説】

演題は、看護行動測定尺度を用いて看護学生の実践能力を調査したもの(1題)、看護学導入期(基礎実習前の時期)に学習の困難に対応して作成したWEB教材の活用状況(1題)、看護系大学卒業の新卒看護師に求められる臨床看護実践能力について、1年目、2年目、3-5年の先輩に面接調査した内容を質的に分類したもの(3題)でした。いずれも看護実践能力の学習/教育などに関するユニークな視点でのテーマでした。ポスターセッションのメリットを活かして、発表者と聴衆が気軽に意見を交換し、今後の研究への新たな示唆を共有できたように思われます。

看護実践能力(臨床能力: competency)は臨床でも教育でも非常に関心の高い領域の一つですが、能力をどのように表現するかなど、まだまだ課題は山

## 事務局の窓から

### 第15回聖路加看護学会学術大会を振り返って

- 参加者の世代を考えたワンコイン昼食弁当は、企画委員会のmissionで、委員会ごとに試食をしました。最後の試食で、皆が納得したものにめぐりあり、全員一致でGOとなりましたが、実は「おにぎり」を注文していたのですが、違った……!
- 日頃、私たち自身が学会参加者として電子媒体による発表は慣れてはいるはずなのに、運営側に回ると、現代のIT化には遅れをとる聖路加ならではの手作り学会でした。口演発表への事前試写のIT環境は、次回の重要事項として提案いたします。(事務局：高屋)
- 口座開設後、しばらく事前登録者の伸びも思うように振るわず、切り詰めたがらの活動でした。企画委員の普段の幅広い活動が大きな力となって、予想を超える企業協力と事前参加登録者が得られました。収支の額が大きくなるにつれて、今度はドキドキの毎日でした。(会計担当：井上)
- 新企画の看護技術展示6題、示説発表24題と計30演題の発表は嬉しい限りでした。今年の一般演題は群ごとにテーマを決め、それもとてとうまくまとまりました。講演集作成にあたり、講演者の先生のお名前の表記について、漢字なのか、ひらがなのか?迷ったり、思わぬところで、何度も確認!学会の準備はこの確認作業の繰り返しでした。演題申し込みと抄録作成にあたり、要項・見本など示していましたが、皆さん、オリジナリティ溢れていていましたが、そこは手作り学会の良さを活かして、フレキシブルに対応できました。(プログラム担当：池亀)
- “瞬発力で勝負”  
まだ先とのんびり構えていた会場係が忙しくなったのは、7月過ぎころからでした。前年度までの状況をあまりよく知らないメンバーでしたが、瞬発力で勝負!!  
「できる限りかかる費用を削減し、最大のおもてなしを」と言うのが大会長の考えと勝手に考え、病院と大学の合同メンバーで分担し準備してきました。  
当日は、各担当者にお任せし進行されましたが、実行委員の機敏な動きも加わり、どんな状況にも臨機応変に対応し、何事もなかったかのように無事終了することができました。(会場担当 吉川久美子)

積していると思います。だからこそ、質的研究方法を用いて、能力を的確に表す命名(看護実践能力の適切な概念化)ができれば、効率的な能力開発プログラムにつながっていくと思います。将来の研究成果に関して期待をふくらませることができたセッションだったと感じました。(森田 夏実)

### 【第5群 第Ⅱ会場 示説】

第5群は産業看護2題、国際看護3題のセッションで、内容もメンタルヘルス、中皮腫、JICAの活動報告などバラエティーに富むものでした。

教室の一区画を使用したポスターセッションでしたが、多くの方が発表に耳を傾け様々な質問が投げかけられました。

現代の社会問題のひとつでもあるうつ病による休職からの復帰プロセスに関する演題ではその職場復帰への過程が丁寧に分析され、アスベスト被害による中皮腫患者の療養上の問題では確実な治療が未だなく、予後が極めて厳しい疾患に苦しむ患者の現状と、医療者や社会に望むことが示されました。また国際看護分野では、フィリピン・スラム地区、あるいはウガンダ共和国における医療の現状や、そこで暮らす子どもたちの生活、健康問題が提示され、聴衆は深い関心を寄せていました。

在日外国人留学生の健康情報の取得に関する発表では、異文化の中で暮らす人々が、自らの健康を守るためにいかに情報を効率的に入手しているか、そのためにどのような能力が必要かが明らかとなり、座長をしているものにとっても大変興味深い発表ばかりでした。参加者の満足度も高かったのではと思います。(林 直子)

## ●参加者からの一言メッセージ

- ・川島先生は素晴らしい!!看護界の光です。先生の話聞くことで、自分の看護に自身もがてます。

## ■第15回聖路加看護学会総会の焦点

聖路加看護学会 森 明子, 佐居由美 (庶務担当)

～高度実践看護開発検討委員会の発足～

第一回名誉会員・会計年度変更の検討～

第15回聖路加看護学会総会は、2010年9月25日(土)に出席者35名、委任状提出者246名により開会されました。学術大会長である佐藤エキ子氏を議長とし、2011年度の事業計画案および予算案について説明がなされ、総会の議題はすべて承認されました。

本総会の焦点は、2010年度新事業である「高度実践看護開発検討委員会の発足」です。高度実践看護開発検討委員会は、高度な看護実践の開発に寄与することを目的に発足させ、聖路加看護学会としての意見を、看護系学会等看護保険連合に反映させることを意図した委員会です。



名誉会員の方々

また、本総会においては、第一回名誉会員(飯田澄美子氏・今村節子氏・内田卿子氏・木下安子氏・深瀬須加子氏、高橋シュン氏・寺田



記念品のめがね立て

秀夫氏・日野原重明氏)の承認がなされ、ご出席の4名(深瀬氏・今村氏・内田氏・飯田氏)の名誉会員の方々に、会員証と記念品(安藤七宝店製聖路加看護学会誌表紙デザインのめがね立て)が贈呈されました。

これらに加え、2011年度には、会計年度の変更(現行「10月1日～翌年9月30日」→「4月1日～翌年3月31日」)が検討されることとなりました。これは、会計年度が一般的な会期と異なることによる会計事務作業の煩雑性の解消、総会前後の活動時に予算執行を可能とするための提案です。その他、学術大会の開催、学会誌・ニュースレターの発行、会員相互の学術的交流、学会組織強化の検討(2008年度将来構想委員会答申をふまえた検討)、看護実践科学研究助成基金(2011年度予算50万円)等の事業は、引き続き実施予定です。また、第17回学術大会長には、現理事長 山田雅子氏(聖路加看護大学教授)が推薦され承認されています。



名誉会員証

## お知らせ

### ★学術交流委員会

今年度の学術交流会は、『研究と実践をつなぐ』というテーマでパネルディスカッションを開催しました。聖路加看護大学学園祭(白楊祭)と同日10月30日(土)午後、台風が接近する荒天の中、聖路加看護大学2号館6階講義室に3名のパネリストと22名の参加者が集い、実践と研究をつなぐ看護の未来について語り合い、展望しました。パネリストには、梅田恵氏(がん専門看護師、株式会社緩和ケアパートナーズ)、白林綾氏(看護学博士、特定医療法人清和会和ホスピタル)、古橋知子氏(小児看護専門看護師、福島県立医科大学看護学部・附属病院看護部)をお招きし、研究と実践のつなぎ手としての活動の現状や課題について報告していただきました。内容の詳細は次号に掲載されますので是非ご一読下さい。(担当理事: 鶴田恵子・中山洋子)

### ★学会誌編集委員会

2010年度は、編集業務の一部を外部委託して活動を行いました。ご投稿頂いた論文の査読編集も、編集委員と委託業者が連携して迅速かつ継続的に作業を進めることができたように思います。2010年度は第1号5編、第2号6編、計11編の論文を掲載することができました。査読者の皆様には、お忙しい中快く査読を受けて頂き、大変感謝しております。

編集委員会では、業務委託に伴いこれまでの編集プロセスと課題を整理し、また今後の学会誌のあり方についても検討しながら取り組んでおります。

次号も、皆様からのご投稿ならびにご協力をお願い致します。(担当理事: 太田)

## 編集後記

今回のニュースレターは第15回聖路加看護学会学術大会の特集号です。すでに師走となりましたが、来年の発表準備を怠りなくしておきましょう。(HT)

## 第16回聖路加看護学会学術大会のご案内(第1報)

開催日: 2011年9月24日(土)

会場: 聖路加看護大学

大会長: 田代 順子(聖路加看護大学)

テーマ: 看護実践の高度化と役割拡大: 看護の可能性をひらく(仮)

学術大会事務局: 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学

WHO PHC 看護開発協力センター事務局

(長松康子)

FAX: 03-6226-6377

e-mail: slnr16@slcn.ac.jp

聖路加看護学会は、常に新たな「看護実践の向上と看護学」を目指して設立されました。1996年の第1回の学術大会で、『実践重視の看護を問い直す』と題するシンポジウムで、私もシンポジストの一人として看護実践のための研究の方向性について述べたことを思い出します。早くも16年を経て、第16回学術大会の大会長を務めることになりました。

人々と健康生活を取りまく社会・国際状況と医療状況は大きく変化しております。日本では、高齢者ケア、多様な文化を持つ人々のケア、そして、グローバルヘルスでの日本の貢献が課題となっております。その変化する社会・世界のヘルスニーズおよび看護ニーズにそって、私たちが看護職は看護実践と看護学を発展・拡大させてきたと考えます。

この数年、看護学の新専門領域は、国際、在宅、そして、遠隔看護学と広がっております。加えて、医療・看護の理念も、統合されたPeople-centered Health Care(人々を第1に考えるケア)となり、本学会誌の研究論文には、「People-Centered Care」の枠組みで研究が多く見られます。People-Centered Careの看護の中核は協働(コラボレーション)にあると思います。プログラムでは、新たな領域における最新の看護実践研究の講演と、それぞれのクライアント・在宅・地域・国際でのコラボレーションの実践を共有し、看護実践科学の刷新の方向性を参加の皆様と考えることができると願っております。

看護実践が多様化し、責任が大きくなる今日、第16回の学術大会で、再び、今日の『実践重視の看護を問い直す』に立ちかえり、明日の看護実践の刷新へのエネルギーが得られる会となればと準備してまいります。

### ★庶務

- ・現在、会員数は610名です(2010年9月25日現在)。引き続き、周囲の方々へ本学会への勧誘をお願いいたします。
  - ・勤務先(所属)、住所、メールアドレスなどの変更がありましたら、速やかに、学会事務局までご連絡くださいようお願い申し上げます。
- 連絡先: E-mail address: slnr@slcn.ac.jp  
Fax(大学代表): 03-5565-1626(郵送でもかまいません)  
(担当理事: 森明子, 佐居由美)

### ★会計

昨年度の会費納入率は80%でした。みなさまのご協力に、心より感謝を申し上げます。

本日より、2011年度(2010年10月1日～2011年9月末日)の年会費納入の受付を開始いたします。当該年度の会費納入が確認されるまで、学会誌の送付を控えさせていただいております。お心当たりの方、過去の納入がお済みでない方は、本年度分とあわせて納入いただくと助かります。

振込み先: 郵便振替口座: 00100-8-670371、加入者名: 聖路加看護学会です。何かご不明な点などありましたら、Fax03-5803-0154か、kouko.rhn@tmd.ac.jp(大久保功子)にお問い合わせください。よろしくお願い申し上げます。(担当理事: 大久保功子)